

救護第5班 3月14日～3月19日 看護師・尾前 真美



私たちの班から、飛行機で現地入りができました。空港からマイクロバスで石巻赤十字病院に行きましたが、燃料を調達するよう指示があり、途中でポリタンクを4個買ってガソリンと灯油を購入。こんなところから始まるんだと思いました。

1日だけ石巻赤十字病院の支援活動で、次の日からは巡回診療。医療ニーズなどの情報収集も兼ねて1日に3～4カ所を回りました。各避難所では時間を区切って救護活動をしました。受診者は慢性期がほとんど。私たちは体育館のステージの前で、列をなす受診者一人一人の診察を行いました。

石巻赤十字病院では中等症エリアの担当で、患者数が多くベッドがすぐに満床となるため、代わりにストレッチャーを入れたり慌ただしい状況でした。中等症エリアの奥には、いつ来るかわからないバスを待っている帰宅困難者もいて、多くは救急車やヘリで運ばれて来て、治療後に帰る手段がない人たちでした。薬を待ってる人も列を作っていて、いつ見ても人の列が減らない。雪が降っていて寒かったが、並んでる人は着の身着のままというそんな状況でした。バスを待つ人たちは救急車やヘリで運ばれた人のほか、タクシーで来て帰りのタクシーが見つからない人などでした。

活動は昼勤の体制で、私たちは1日だけ病院図書室の本棚の間で寝袋に入りましたが、あとは特殊医療救護車両(ディザスター)の中で眠りました。男性はテントでした。風呂や普通の生活の大切さを痛感しました。

